

私のカルテ

No 330

乾癬

乾癬とは？

皆さま、乾癬という皮膚の病気を日常的に耳にすることは少ないのではないかと思います。しかし、日本では人口の0.3%程度が罹患していると報告されており、決して稀な疾患ではなく、皮膚科には多くの乾癬の患者さんが受診されています。

長期にわたりに目立つ皮疹がでることにより、夏場など薄着になる時期に半袖が着られない、温泉に行けないなどの悩みを抱えている患者さんもみられ、生活の質に影響を与える疾患でもあります。

また「感染」と読みが一緒であるためうつる病気と勘違いされてしまうこともありますが、人にうつることはありません。

乾癬の症状

乾癬の症状としては皮膚が部分的に赤く盛り上がり、その上に銀白色のフ

ケのようなものがつきポロポロとはがれ落ちたりします。これらの症状は、主に頭、背中、おしり、ひじなど衣類と擦れたり外的刺激が多い部位にみられますが、患者さんによっては全身の皮膚におよぶこともあります。また、爪の変形や関節に腫れや変形、痛みなどの症状がみられることもあります。

一般的には慢性的に続いて、時によくなったり悪くなったりします。どのよう

どのように診断されるか？

乾癬は特徴的な皮疹がでるため、見た目だけで診断されることもあります。が、皮疹が典型的でない場合や、その他の皮膚疾患との区別が難しい場合などには皮膚生検が行われます。

方法は皮疹部に注射で局所麻酔をして3〜5ミリメートル程度の皮膚を採取して顕微鏡で皮膚組織を見る検査に

乾癬の治療

乾癬は残念ながら完全に治る病気ではなく、自身の免疫作用が関与していることがわかってきていますが、明確な原因はまだ明らかになっておりません。よって、基本的に乾癬の治療は症状を抑えこみ良い状態を保つこととなります。症状の軽い方はステロイドやビタミンD₃の塗り薬で治療を行います。中等症〜重症の方では、体に害がない波長の紫外線をあてたり、免疫作用を抑える薬を服用したりします。

近年では皮疹が広範囲であったり、関節の症状がある場合などには生物学的製剤と呼ばれる注射薬も使われるようになりました。

おわりに

乾癬は20〜30歳代の若年で発症することもあり、長期にわたり付き合っているかなければならない場合もあります。現状では完治させることは困難な病気



津島市民病院
皮膚科医師
小林 東

ですが、治療を継続して皮疹を抑えてみ生活の質を向上させることも乾癬治療の一つの目的となります。

お悩みの方はぜひ一度皮膚科にご相談ください。もっと乾癬の情報を知りたい方は日本皮膚科学会ホームページ <https://www.dermatol.or.jp/>の「皮膚科Q&A」のコーナーをご参照ください。



©社団法人日本皮膚科学会

▲社団法人日本皮膚科学会ホームページより引用